

平成 21 年 4 月 20 日現在

研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2007 年—2008 年
 課題番号： 19591832
 研究課題名 (和文) 膀胱癌に対する核酸医薬を用いたあたらしい治療法の開発
 研究課題名 (英文) Establishment of novel therapeutics for bladder cancer using nuclear acid medicine
 研究代表者
 湯浅 健 (YUASA TAKESHI)
 秋田大学・医学部・講師
 研究者番号： 00314162

研究成果の概要：

申請者の研究目標は、『泌尿器科癌における発癌の解明とそれに基づいたあたらしいバイオマーカーの発見および分子標的治療法の開発』である。今回の研究では、1) オーダーメイド医療を目指した宿主の遺伝子因子の解析からは、抗癌剤治療の副作用に関与する遺伝子の解明、2) 骨代謝に関しては、前立腺癌患者の内分泌治療と骨密度の関係について、骨転移および微小転移の解明からはオステオプロテゲリン遺伝子と前立腺癌の進行について、3) あたらしい免疫療法の開発研究では gammadelta T 細胞を用いた細胞治療について、4) 臨床データの解析からは、臨床データの解析から前立腺癌の再生検時の基準・危険因子などを報告した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：外科系臨床医学・泌尿器科学

キーワード：microRNA, 膀胱癌、前立腺癌

1. 研究開始当初の背景

申請者の研究目標は、『泌尿器科癌における発癌の解明とそれに基づいたあたらしい分子標的治療法の開発』である。泌尿器科癌では、膀胱癌におけるゲムシタビン、前立腺癌でのドセタキセルなど新規抗がん剤の承認や、腎細胞癌における分子標的治療法の導入など最近の薬剤治療の変遷は目覚ましい。医療者サイドにとっては、選択肢が増えた半面、治療の選択、順序の考案など迷うことも多い。薬剤治療の効果・副作用には個人差が大きく、治療前に予測が可能であれば不要な治療・危

険因子の縮小化にも繋がる。一方、骨には IGF-1, IGF-II や TGF-beta など様々な成長因子が豊富に貯蔵されていることが明らかとなり、疾患の経過を modify していることが考えられる。これらのことを臨床データの解析からも確認し、医療の個別化から最高の医療の供給を目指し、また新しい治療法の開発を目指していく予定である。

2. 研究の目的

今回の研究目標は次の 4 つからなる。すなわち、1) オーダーメイド医療を目指した宿主の遺伝子因子の解析、2) 骨代謝、骨転移および

微小転移の解明、3) あたらしい免疫療法の開発研究、そして 4) 臨床データの解析から、あたらしい知見、あたらしい診断、治療法の開発である。

3. 研究の方法

PCR-RFLP や direct sequencing などによる遺伝子多型の解析から、臨床データベースに戻り、病理組織学的因子や臨床経過、予後との相関関係について統計学的に検索を行った。あたらしい治療法の開発としては、in vivo imaging system を用いて非観血的に反復して測定可能な同所移植のマウスシステムを構築し、経尿道的治療による細胞療法の効果を検討した。

4. 研究成果

1) オーダーメイド医療を目指した宿主の遺伝子因子の解析
薬剤治療の効果・副作用には個人差が大きい。我々は薬剤の代謝酵素、トランスポーターなどの遺伝子解析から、血小板減少など血液毒性に関わる因子を解明し報告している。また、血管新生や成長因子の遺伝子型と泌尿器科癌の病理組織学的因子や臨床経過、予後との相関関係についても報告している。

2) 骨代謝、骨転移および微小転移の解明
骨には IGF-1, IGF-II や TGF-beta など様々な成長因子が豊富に貯蔵され、癌の浸潤・転移に重要な役割を果たし、癌患者の病勢を modify している可能性が示唆される。今回の研究では骨代謝に重要な役割を果たしている Osteoprotegerin 遺伝子型により骨転移のある Stage D2 患者の生命予後に差を認めることが示唆された。さらに日本人と欧米人の前立腺癌患者の骨密度の相違や、高脂肪食下での進行について報告した。

3) あたらしい免疫療法の開発研究
膀胱癌に対するあたらしい治療法の開発としては、in vivo imaging system を用いて非観血的に反復して測定可能な同所移植のマウスシステムを構築し、gammadelta T 細胞を用いた細胞治療についての in vivo での治療効果を報告した。また膀胱癌患者の尿の 2 次元電気泳動の結果から新規の分子マーカーの候補として C7orf24 を報告している。

4) 臨床データの解析から、あたらしい知見、あたらしい診断、治療法の開発

我々は日常生活において診断・治療を行っているが、診断・治療とも常に進歩・変遷しており、後方視的に臨床データを解析することから、進歩・変遷の正当性を確認することが義務と自覚している。臨床データの解析から前立腺癌の再生検時の基準・危険因子などを報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 29 件)

- 1 Yuasa T, Sato K, Ashihara E, Takeuchi M, Maita S, Tsuchiya N, Habuchi T, Maekawa T, Kimura S. Intravesical administration of gammadelta T cells successfully prevents the growth of bladder cancer in the murine model. *Cancer Immunol Immunother.* 58: 493-502, 2009. (査読有)
- 2 Wang W, Yuasa T, Tsuchiya N, Maita S, Kumazawa T, Inoue T, Saito M, Ma Z, Obara T, Tsuruta H, Satoh S, Habuchi T. Bone mineral density in Japanese prostate cancer patients under androgen-deprivation therapy. *Endocr Relat Cancer.* 15: 943-52, 2008. (査読有)
- 3 Kageyama S, Iwaki H, Inoue H, Isono T, Yuasa T, Nogawa M, Maekawa T, Ueda M, Kajita Y, Ogawa O, Toguchida J, Yoshiki T. A novel tumor-related protein, C7orf24, identified by proteome differential display of bladder urothelial carcinoma. *Proteomics Clin Appl* 1: 192-9, 2007. (査読有)
- 4 Horikawa Y, Kumazawa T, Narita S, Inoue T, Yuasa T, Matsuura S, Nanjo H, Satoh S, Tsuchiya N, Habuchi T. Lymphatic invasion is a prognostic factor for bladder cancer treated with radical cystectomy. *Int J Clin Oncol.* 12:131-6, 2007. (査読有)
- 5 Kanzaki M, Kakinuma H, Kumazawa T, Inoue T, Saito M, Narita S, Yuasa T, Tsuchiya N, Habuchi T. Low concentrations of the histone deacetylase inhibitor, depsipeptide, enhance the effects of gemcitabine and docetaxel in hormone refractory prostate cancer cells. *Oncol Rep.* 17: 761-7, 2007. (査読有)
- 6 湯浅健, 熊澤光明, 齊藤満, 井上高光, 成田伸太郎, 堀川洋平, 松浦忍, 佐藤滋, 土谷順彦, 羽瀧友則 (2007) 内分泌療法抵抗性前立腺癌に対する化学療法と展望. *泌尿器外科* 20, 535-538. (査読無)
- 7 Yuasa T, Kimura S, Ashihara E, Habuchi T, Maekawa T. Zoledronic acid –a multiplicity of anti-cancer action-. *Current Medicinal Chemistry* 14:2126-35, 2007. (査読有)
- 8 沼倉一幸, 土谷順彦, 井上高光, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 精巣静脈性血管腫の 1 例. *泌尿紀要* 53, 493-495. (査読有)
- 9 小原崇, 松浦忍, 井上高光, 熊澤光明, 阿部明彦, 堀川洋平, 富樫寿文, 湯浅健, 土谷順彦, 佐藤滋, 佐藤一成, 羽瀧友則 (2007) 腎癌における T 分類カットオフ値の再評価. *日泌尿会誌* 98, 671-676. (査読有)
- 10 湯浅健, 土谷順彦, 熊澤光明, 成田伸太郎,

- 堀川洋平, 齊藤満, 井上高光, 小原崇, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀨友則 初回生検陰性例の前立腺癌の病理学的ならびに臨床的特徴. 泌尿器外科 **20**, 1031-1033, 2007. (査読無)
- 11 Fukuda H, Tsuchiya N, Narita S, Kumazawa T, Horikawa Y, Inoue T, Saito M, Yuasa T, Matsuura S, Satoh S, Ogawa O, Habuchi T. Clinical implication of vascular endothelial growth factor T-460C polymorphism in the risk and progression of prostate cancer. *Oncol Rep.* 18:1155-63, 2007. (査読有)
- 12 齋藤満, 佐藤滋, 小峰直樹, 里吉清文, 米田真也, 三浦喜子, 灘岡純一, 小原崇, 熊澤光明, 井上高光, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 羽瀨友則, 福田浩和, 小林浩悦 (2007) 免疫学的超ハイリスク症例に対する生体腎移植の経験. 秋田腎不全研究会誌 **10**, 83-88. (査読無)
- 13 米田真也, 齋藤満, 佐藤滋, 里吉清文, 三浦喜子, 熊澤光明, 井上高光, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 土谷順彦, 羽瀨友則, 福田浩和, 小林浩悦 (2007) 脳死判定から165日目に心停止後腎摘出し35年と23年の透析から離脱した2例. 秋田腎不全研究会誌 **10**, 89-92. (査読無)
- 14 土谷順彦, 井上高光, 湯浅健, 羽瀨友則 遺伝子多型とMVAC化学療法の副作用 *Urology View* **6**, 104-108, 2008. (査読無)
- 15 Narita S, Tsuchiya N, Saito M, Inoue T, Kumazawa T, Yuasa T, Nakamura A, Habuchi T. Candidate genes involved in enhanced growth of human prostate cancer under high fat feeding identified by microarray analysis. *Prostate* **68**: 321-35, 2008. (査読有)
- 16 Saito M, Yuasa T, Nanjo H, Tsuchiya N, Satoh S, Habuchi T. A case of testicular angiomyolipoma. *Int J Urol.* **15**: 185-7, 2008. (査読有)
- 17 Nadaoka J, Horikawa Y, Inoue T, Narita S, Kumazawa T, Saito M, Yuasa T, Satoh S, Nishiyama H, Ogawa O, Habuchi T, Tsuchiya N. Significance of HIF-1alpha Polymorphisms in Transitional Cell Carcinoma of the Bladder. *Int J Cancer* **2008** **122**:1297-302. (査読有)
- 18 Saito M, Yuasa T, Satoh S, Nanjo H, Tsuchiya N, Habuchi T. Developing multiple lung nodules in a renal transplant recipient with tuberous sclerosis who had undergone bilateral nephrectomy due to renal cell carcinomas. *Int J Urol.* **15**: 257-8, 2008. (査読有)
- 19 湯浅健, 土谷順彦, 羽瀨友則 泌尿器科における分子標的治療 泌尿器ケア **3**, 81-84, 2008. (査読無)
- 20 Horikawa Y, Nadaoka J, Saito M, Kumazawa T, Inoue T, Yuasa T, Tsuchiya N, Nishiyama H, Ogawa O, Habuchi T. Clinical implications of the MDM2 SNP309 and p53 Arg72Pro polymorphisms in transitional cell carcinoma of the bladder. *Oncol Rep.* **20**: 49-55, 2008. (査読有)
- 21 Narita N, Yuasa T, Tsuchiya N, Kumazawa T, Narita S, Inoue T, Ma Z, Saito M, Horikawa Y, Satoh S, Ogawa O, Habuchi T. A genetic polymorphism of the osteoprotegerin gene is associated with an increased risk of advanced prostate cancer. *BMC Cancer* **8**: 224, 2008. (査読有)
- 22 Saito M, Satoh S, Kagaya H, Tsuruta H, Obara T, Kumazawa T, Inoue T, Inoue K, Miura M, Yuasa T, Komatsuda A, Tsuchiya N, Habuchi T. Thrombotic microangiopathy developing in early stage after renal transplantation with a high trough level of tacrolimus. *Clin Exp Nephrol.* **12**: 312-5, 2008. (査読有)
- 23 湯浅健 細胞免疫療法 —新しい試み— 「膀胱癌に対するガンマデルタT細胞の抗腫瘍効果」 *Biotherapy* **22**, 309-314, 2008(査読有)
- 24 Yuasa T, Tsuchiya N, Kumazawa T, Inoue T, Narita S, Saito M, Horikawa Y, Satoh S, Habuchi T. Characterization of prostate cancer detected at repeat biopsy. *BMC Urology* **8**: 14, 2008. (査読有)
- 25 羽瀨友則, 湯浅健, 土谷順彦 ゲノム医学・分子医学による分子標的薬適応評価の可能性 *Urology View* **6**, 85-91, 2008. (査読無)
- 26 Ma Z, Tsuchiya N, Yuasa T, Inoue T, Narita S, Kumazawa T, Narita S, Horikawa Y, Tsuruta H, Obara T, Saito M, Satoh S, Ogawa O, Habuchi T. Polymorphisms of Fibroblast growth factor receptor 4 have association with the progression of prostate cancer in Japanese population. *Int J Cancer* **123**: 2574-9, 2008. (査読有)
- 27 Tsuchiya N, Inoue T, Narita S, Kumazawa T, Saito M, Obara T, Tsuruta H, Horikawa Y, Yuasa T, Satoh S, Habuchi T. Drug-related Genetic Polymorphisms affecting Adverse Reactions of MVAC in Patients with Urothelial Cancer. *J Urol* **180**: 2389-95, 2008. (査読有)
- 28 齋藤満, 佐藤滋, 井上高光, 神崎正俊, 小原崇, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 羽瀨友則 (2007) 特集—「既存抗体陽性症例に対する腎臓移植・肝臓移植・心臓移植」. Highly sensitized 腎移植における Rituximab の予防的投与効果. *移植* **41**, 559—565. (査読無)
- 29 湯浅健, 土谷順彦. 膀胱がんに対するあたらしい治療 small interfering RNA をもちいた膀胱内注入療法を目指して *DDS* **2007**. (査読無)

[学会発表] (計 47 件)

- 1 Yuasa T, Kimura S, Maekawa T, Tsuchiya N, Habuchi T. A novel bisphosphonate augments the IFN alpha/beta-mediated inhibition of RCC (Workshop) 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜 2008 年
- 2 松浦忍, 成田孔明, 西井俊晶, 小原崇, 鶴田大, 水戸部陽子, 齋藤満, 熊澤光明, 井上高光, 湯浅健, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2008) 骨盤底筋のヒト上位中枢: 機能的 MRI を用いた"利き手"による差異の検討, 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 3 齋藤満, 佐藤滋, 井上高光, 鶴田大, 熊澤光明, 成田 伸太郎, 馬智勇, 王尉, 湯浅健, 土谷順彦, 羽瀧友則 (2008) ハイリスク腎移植における Rituximab を用いた脱感作療法の臨床効果 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 4 井上高光, 齋藤満, 成田直史, 鶴田大, 小原崇, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2008) 長期透析による腎移植前膀胱容量の減少と有害事象の検討 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 5 熊澤光明, 鶴田大, 小原崇, 齋藤満, 井上高光, 湯浅健, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2008) PSA 再発予測に関する GPSM score の有用性(前立腺癌症例の検討(腹腔鏡をのぞく) 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 6 馬智勇, 土谷順彦, 湯浅健, 王尉, 熊澤光明, 井上高光, 鶴田大, 河田真子, 齋藤満, 小原崇, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2008) Fibroblast growth factor receptor 4 遺伝子多型と前立腺癌発症リスクとの関連性の検討, 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 7 王尉, 湯浅健, 土谷順彦, 熊澤光明, 鶴田大, 小原崇, 齋藤満, 井上高光, 佐藤滋, 馬智勇, 羽瀧友則(2008) miRNA181a はポリコーン群遺伝子 RNF110 の発現を修飾し前立腺癌の進展に関与する 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 8 佐藤滋, 齋藤満, 井上高光, 鶴田大, 小原崇, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 加賀谷英彰, 井上和幸, 三浦昌朋, 羽瀧友則 (2008) タクロリムス (TAC) 免疫抑制における急性拒絶 (AR)・慢性移植腎症 (CAN) 発症に及ぼす CYP3A5 遺伝子多型と薬物動態の影響, 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 9 土谷順彦, 熊澤光明, 井上高光, 成田伸太郎, 齋藤満, 堀川洋平, 小原崇, 湯浅健, 佐藤滋, 羽瀧友則(2008) 腎細胞癌患者における DNA の完全性 第 96 回日本泌尿器科学会総会横浜.
- 10 成田伸太郎, 小原崇, 齋藤満, 井上高光, 熊澤光明, 湯浅健, 佐藤滋, 土谷順彦, Alan So, Martin Gleave, 羽瀧友則 (2008) アンドロゲン不応性前立腺癌細胞株に対する Gli2 アンチセンスオリゴ療法の抗腫瘍効果 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 11 湯浅健, Wang Wei, 土谷順彦, 熊澤光明, 鶴田大, 小原崇, 齋藤満, 井上高光, Ma Zhiyong, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2008) 日本人前立腺癌患者は内分泌療法による骨密度低下への感受性が低い, 第 96 回日本泌尿器科学会総会 横浜.
- 12 Wang W, Yuasa T, Tsuchiya N, Kumazawa T, Obara T, Tsuruta H, Saito M, Inoue T, Ma Z, Satoh S, Habuchi T. A mutant allele in a miR-181 binding-site of the Mel-18 gene is associated with a poor prognosis in prostate cancer. Annual Meeting of the American Urological Association, Orlando, 2008.
- 13 Yuasa T, Sato K, Tsuchiya N, Kimura S, Ashihara E, Takeuchi M, Maekawa T, Habuchi T. Intravesical administration of gammadelta T cells successfully prevents the growth of bladder cancer Annual Meeting of the American Urological Association, Orlando, 2008.
- 14 湯浅健 パネルディスカッション「症例より学ぶ 一血尿」 73 回日本泌尿器科学会東部総会 東京 2008.
- 15 湯浅健, 王尉, 米田真也, 土谷順彦, 鶴田大, 齋藤満, 熊澤光明, 井上高光, 馬智勇, 佐藤滋, 羽瀧友則 日本人前立腺癌患者の骨密度 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会 東京 2008.
- 16 井上高光, 齋藤満, 成田直史, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 長期透析期間による腎移植前膀胱容量の減少と VUR の検討. 第 40 回日本臨床腎移植学会、加賀
- 17 齋藤満, 土谷順彦, 米田真也, 小原崇, 熊澤光明, 井上高光, 成田伸太郎, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 鏡視下ドナー腎摘部位はどこが最適か? 第 40 回日本臨床腎移植学会、加賀
- 18 佐藤滋, 齋藤満, 土谷順彦, 井上高光, 沼倉一幸, 小原崇, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 加賀谷英彰, 井上和幸, 三浦昌朋, 鈴木敏夫, 羽瀧友則 (2007) 腎移植後維持期におけるタクロリムス (TAC) の薬物動態日内変動・遺伝子多型と慢性移植腎症 (CAN) への影響? 移植後早期との比較?. 第 40 回日本臨床腎移植学会、加賀
- 19 井上高光, 畠山真吾, 齋藤満, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 大山 力,

- 羽瀧友則 (2007) α -Galactosylceramide (α -GalCer) のマウス進行性腎癌株 RENCA に対する抗腫瘍効果の検討. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 20 小原崇, 松浦忍, 齋藤満, 井上高光, 熊澤光明, 湯浅健, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 前立腺全摘術後の排尿, 勃起機能の検討. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 21 熊澤光明, 小原崇, 齋藤満, 井上高光, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) サイトカインによる泌尿器科手術侵襲の検討. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 22 齋藤満, 土谷順彦, 成田伸太郎, 熊澤光明, 井上高光, 堀川洋平, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) ドナー腎摘創傷部位の検討. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 23 佐藤滋, 齋藤満, 井上高光, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 加賀谷英彰, 三浦昌朋, 小松田敦, 鈴木敏夫, 羽瀧友則 (2007) 腎移植 1 か月と 1 年以上経過した維持期でのタクロリムス 24 時間薬物動態と薬物遺伝学との相違および慢性移植腎症との関連. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 24 土谷順彦, 成田伸太郎, 熊澤光明, 井上高光, 馬智勇, 齋藤満, 堀川洋平, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 小川修, 羽瀧友則 (2007) 進行性前立腺癌の予後における hGH, IGF-1b ならびに IL-6 遺伝子多型の関与. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 25 成田直史, 湯浅健, 土谷順彦, 熊澤光明, 堀川洋平, 成田伸太郎, 齋藤満, 井上高光, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 前立腺癌の進展における Osteoprotegerin の役割. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 26 福田歴視, 土谷順彦, 成田伸太郎, 熊澤光明, 堀川洋平, 井上高光, 齋藤満, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 小川修, 羽瀧友則 (2007) 血管増殖因子遺伝多型が前立腺癌の発症リスクと予後に及ぼす影響ならびに本多型と摘出標本における蛋白発現・微小血管密度との関連性についての検討. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 27 湯浅健, 佐藤澄, 木村晋也, 羽瀧友則, 前川平 (2007) 膀胱癌に対する第 3 世代ビスフォスフォネートの抗腫瘍効果. 第 95 回日本泌尿器科学会総会 神戸
- 28 井上高光, 齋藤満, 成田直史, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 長期透析期間による腎移植前膀胱容量の減少と腎移植後尿路トラブルとの検討. 第 52 回日本透析医学会総会, 大阪
- 29 湯浅健 骨転移に対する治療の Update-ビスフォスフォネート製剤-. 泌尿器科腫瘍. (卒後教育プログラム) 第 95 回日本泌尿器科学会総会, 神戸 2007 年
- 30 佐藤滋, 沼倉一幸, 齋藤満, 井上高光, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 加賀谷英彰, 井上和幸, 三浦昌朋, 鈴木敏夫, 羽瀧友則 「腎移植: 最近の話題」腎移植治療個別化を目指した遺伝子多型解析-遺伝子多型と免疫抑制剤薬物動態-. 第 95 回日本泌尿器科学会総会, 神戸 2007 年
- 31 Narita, S., Tsuchiya, N., Saito, M., Inoue, T., Kumazawa, T., Horikawa, Y., Yuasa, T., Matsuura, S., Satoh, S. and Habuchi T. Gene expression in response to high-fat feeding in human prostate cancer xenograft model. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.
- 32 Kanzaki, M., Kakinuma, H., Kumazawa, T., Inoue, T., Saito, M., Yuasa, T., Matsuura, S., Satoh, S., Tsuchiya, N. and Habuchi T. Low concentration of a histone deacetylase inhibitor, depsipeptide (FK228), enhances the effect of gemcitabine and docetaxel in hormone refractory prostate cancer cells. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.
- 33 Kumazawa, T., Obara, T., Saito, M., Inoue, T., Yuasa, T., Matsuura, S., Tsuchiya, N., Satoh, S. and Habuchi T. Comparison of invasiveness between open and laparoscopic surgeries by measuring circulating cytokines. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.
- 34 Tsuchiya, N., Inoue, T., Narita, S., Kumazawa, T., Saito, M., Horikawa, Y., Yuasa, T., Matsuura, S., Satoh, S. and Habuchi T. Identifying genetic polymorphisms which predict adverse effects of MVAC in patients with urothelial cancers. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.
- 35 Tsuchiya, N., Fukuda, H., Narita, S., Kumazawa, T., Horikawa, Y., Inoue, T., Saito, M., Yuasa, T., Matsuura, S., Satoh, S., Ogawa, O. and Habuchi T. Clinical implication of vascular endothelial growth factor (VEGF) T-460C polymorphism in the risk and progression of prostate cancer. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.

- 36 Yuasa, T., Nogawa, M., Habuchi T., Kimura S. and Maekawa T. A novel third generation bisphosphonate, minodronic acid, augments the interferon α/β -mediated inhibition of renal cell cancer cell growth both in vitro and in vivo. The 101st Annual Meeting of the American Urological Association, Anaheim, 2007.
- 37 湯浅健 シンボジウム-膀胱がんに対する核酸医薬を用いた新規膀胱内注入療法の開発研究. 第23回日本DDS学会, 熊本 2007年
- 38 井上高光, 小原崇, 齋藤満, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) MVAC 抵抗性転移性尿路上皮癌に対する Gemcitabine, Docetaxel, Carboplatin 併用化学療法の検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌
- 39 土谷順彦, 熊澤光明, 井上高光, 成田伸太郎, 齋藤満, 小原崇, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 経直腸的6か所生検と10か所生検-検出されない癌から見た比較-. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌
- 40 沼倉一幸, 佐藤滋, 齋藤満, 井上高光, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 羽瀧友則 (2007) 移植後高尿酸血症発症に関連する臨床因子および遺伝子多型の検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌
- 41 Yuasa T., Sato, K., Kimura, S., Ashihara, E., Takeuchi, M., Tsuchiya, N., Habuchi T. and Maekawa, T. Gammadelta T-cells demonstrate the growth inhibition of bladder cancer cell growth both in vitro and in vivo. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜 2007年
- 42 Narita, N., Yuasa, T., Tsuchiya, N., Kumazawa, T., Narita, S., Saito, M., Horikawa, Y., Inoue, T., Satoh, S. and Habuchi T. (2007) A genetic polymorphism of the Osteoprotegerin gene is associated with an increasing risk of advanced prostate cancer. 第66回 日本癌学会学術総会, 横浜
- 43 Tsuchiya, N., Kumazawa, T., Inoue, T., Narita, S., Saito, M., Horikawa, Y., Obara, T., Matsuura, S., Yuasa, T., Satoh, S. and Habuchi T. (2007) Increased integrity of serum cell-free DNA in renal cell cancer patients. 第66回 日本癌学会学術総会, 横浜
- 44 土谷順彦, 井上高光, 成田伸太郎, 熊澤光明, 齋藤満, 堀川洋平, 柿沼秀秋, 湯浅健, 松浦忍, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) MVACによる副作用発現における遺伝子多型の意義. 第45回 日本癌治療学会総会, 京都
- 45 湯浅健, 佐藤滋, 木村晋也, 芦原英司, 武内美紀, 土谷順彦, 羽瀧友則, 前川平 (2007) 膀胱癌に対するガンマデルタT細胞の抗腫瘍効果. 第45回 日本癌治療学会総会, 京都
- 46 井上高光, 小原崇, 齋藤満, 熊澤光明, 湯浅健, 松浦忍, 土谷順彦, 佐藤滋, 羽瀧友則 (2007) 大きな膀胱憩室内結石と尿管結石の合併例に対する同時腹腔鏡下切石術. 第21回日本 Endourology・ESWL学会総会, 東京
- 47 土谷順彦, 成田伸太郎, 熊澤光明, 井上高光, 齋藤満, 小原崇, 堀川洋平, 湯浅健, 佐藤滋, 羽瀧友則(2007) ハンドアシスト後腹膜鏡下ドナー右腎摘出術の臨床的検討. 第21回日本 Endourology・ESWL学会総会, 東京

〔図書〕(計 3件)

- 1 湯浅健, 羽瀧友則 膀胱癌術後(TUR, 全摘)の標準的な Follow 計画 専門医にきく最新の臨床 編集:北村唯一 中外医学社 東京 2008年 pp.86-92
- 2 湯浅健, 土谷順彦, 羽瀧友則 ベバシツマブ (Bevacizumab) Year Book of RCC 2008 編集:富田善彦, 金山博臣, 植村天受, 篠原信雄 メディカルレビュー社 大阪 2008年 pp.125-132
- 3 湯浅健, 羽瀧友則 膀胱癌・病因 新しい診断と治療の ABC 腎癌・膀胱癌. 最新医学社, 東京, 2007年 pp.116-125.

6. 研究組織

(1)研究代表者

湯浅健 (YUASA TAKESHI)
秋田大学・医学部・講師
研究者番号 : 00314162

(2)研究分担者

羽瀧友則 (HABUCHI TOMONORI)
秋田大学・医学部・教授
研究者番号 : 00293861

(3)研究協力者

成田直史	秋田大学・医学部・大学院生
王 尉	秋田大学・医学部・研究生
馬 智勇	秋田大学・医学部・大学院生
米田真也	秋田大学・医学部・大学院生